

特集 — わが町の安全を守る消防団



「第76回北空知連合消防演習」
 (北海道消防協会空知地方支部北
 空知分会、深川地区消防組合など
 主催)が7月11日、妹背牛町内の
 消防庁舎前と道道深川雨竜線の会
 場で開催され、管内1市4町の消
 防団員が日ごろの訓練の成果を披
 露しました。

北空知の演習が妹背牛町で開催
 されるのは、2013年以来11年
 ぶり。消防職団員の技術・資質向
 上と士気の高揚、地域住民に対す
 る防火思想の普及を目的に、コロ
 ナ禍を除いて毎年、管内各地で開
 催されています。

演習は、「規律訓練」「ポンプ操
 法」「出動訓練」「放水訓練」の順
 で行われ、各市町の消防団員が息
 の合った動きを披露し、連携を深
 めました。

消防演習クラブ



出動・放水訓練



精勤章・表彰式



総監・田中町長



川田・総指揮官

規律訓練 (中隊訓練)



入場分列行進

—消防団長のお話—



22代 妹背牛消防団長
中易 利則 さん

妹背牛消防団は毎月の定例出動訓練で、消防・救助活動の研さんに励み、団員同士が専門的な知識と技術を高め合っています。訓練は、消火活動のほか、解体予定の建物を破壊したり、水害時に使用する新しい装備品の使い方を学ぶなど、実践的で特色ある内容です。

年齢や職業も異なる団員たちですが、緊張感に満ちた訓練を終えると、和やかに会話を楽しむほど仲が良く、結束力が高いことも妹背牛消防団の自慢です。

妹背牛町の消防演習では、関係機関の協力を得て公道を活用しており、沿道で見学される方たちに火災予防を呼びかける機会にもなっています。

過去の訓練や地域行事への参画



2022年8月
建物の破壊訓練

解体予定の空き家を活用した実践的な破壊訓練。建物内部に人が取り残されていることを想定し、エンジンカッターでドアを破壊して要救助者の脱出経路を確保しました。

地域防災の要

妹背牛消防団の長い歴史をたどると、前身の公設妹背牛消防組が大正7年6月に発足して以降、自治体消防への移行や深川地区消防組合の発足など幾多の変遷を重ねてきました。

今年で設立から106年を迎えた消防団は現在、50人の団員が日ごろの訓練に励み、地域住民の生命と財産を守るための技術と思想を高めています。

河川の氾濫をせき止めるための土のう袋を活用した水防訓練。砂を入れた布袋50袋をブルーシートに敷き詰めて強度を高めました。

くいが打てないアスファルトでの作業も想定し、土のう袋をシートで包む方法も学びました。



2023年3月
AEDを使った救命講習

専用の人形とAED（自動体外式除細動器）を使った心肺蘇生法の訓練。救命処置が必要な場合に備え、心臓マッサージの方法などを学びました。

地元のイベントで
消防活動をPR



2023年8月
もせうし町民まつり



2022年9月
土のう袋を使った水防訓練



消防演習で披露する訓練の一つに、ポンプ操法があります。深川地区消防組合深川消防署妹背牛支署には、同組合管内で唯一、ホースカーと呼ばれる装備品が配備されており、迅速な消火活動の一助となっています。

ポンプ車の後部に搭載されたホースカーは、二輪のタイヤが付いた荷車の要領で何本ものホースを素早く運ぶことができます。

深川地区消防組合で唯一のホースカーを使った訓練



これにより、ポンプ車から遠くに離れた火災現場への放水開始時間を早め、ホースを肩に担がなくて済む隊員の体力消耗を防ぐことができます。

妹背牛消防団は、7月11日の消防演習でポンプ車操法の「ホースカーによる折りたたみホース1線延長操法」を披露。ホースを1本に連結させる機敏な動きに、見学していた北空知管内の消防関係者から注目が集まりました。

ポンプ操法の訓練に臨む団員



ポンプ操法



ポンプ操法は、実際の火災現場で基本の動きとなる訓練の一つで、入団間もない新人団員に対して教科書のような役割を果たします。

水圧による水の重さを感じてもらおう

ポンプ操法の訓練に励む蔵本さん



ため、若手団員がホースの筒先を持つことが多く、今回の演習では、入団2年目の蔵本健太さん（24）が担当しました。

体を動かすことが好きという蔵本さんは、「地域の役に立ちたい」と、2023年6月に入団。消防演習に向け、農家の仕事と並行して日中・夜間の訓練に励みました。

学生時代はバスケットボールに打ち込んだ183センチの長身と体力が持ち味。7月4日の夜間訓練では「まだ50点ぐらいの出来。本番は100点に近づきたい」と、何度も練習していました。

隊員の動きを確認する高城さん



（61）が隊員をまとめる指揮者を務めました。

訓練中の真剣な表情から一転して、休憩時間は笑顔を絶やさないムードメーカー。汗だくの隊員たちに気さくに声をかけ、訓練の士気を高めています。

新人隊員を教育する目的で、ポンプ操法の指揮者にはベテラン隊員が配属されます。今年、入団29年目の班長・高城政喜さん